

≪ 第 169 回 エフエムぬまづ番組審議会 議事録 ≫

1 開催年月日 2026 年 9 月 11 日(金)17:30 より

2 開催場所 沼津市寿町 8-28 メディアプラザ 1F 会議室

3 委員出席	委員総数	6 名
	出席委員数	5 名
	出席委員氏名	大川 皓平 杉本 万千 林 伸晃 保坂 典子 高木 隆太
	欠席委員氏名	井上 純代
	放送事業者側出席者名	田中 誠 植田 航平 浅田 智子

- 4 議題 開局 28 周年記念特別番組「We Love COAST！夏のサイコー！祭り」
2026 年 8 月 22 日放送分

5 審議内容

（事業者側：植田）定刻になりましたので第 169 回番組審議会を開催いたします。本日はご審議いただく番組は、毎年この時期はこちらの番組の審議になりますが、開局 28 年を迎えたコースト FM がお届けする開局記念特別番組です。今年も開局記念日である 8 月 23 日に近い土曜日の午後 2 時より、5 時間の生放送でお送りしました。スタジオのメインパーソナリティは昨年に引き続き静岡県住みます芸人のぬまんづが担当し、様々なゲストトークをはじめ、Aqours キャストや磯村勇斗さんからのコメント、地元の旬な話題をお届けする中継などで構成されています。今年度の開局特番は、編成制作の立場として、弊社の浅田と外部のディレクターが主となって製作しています。それではよろしくお願いいたします。

（番組聴取）

（林委員） 出演人数が 3 人を超えると途端にがちゃがちゃした感じが出てしまうという印象でした。特番ということで、楽しそうな雰囲気なのは伝わりますが、ぬまんづのお 2 人だけが話すときは、慣れているからか同時に喋ることもなく聞きやすい一方、ゲストを交え 3～4 人で喋るとなると、皆さんのテンションが高くなって聞きづらくなってしまったかと思います。人によっては、内輪ウケのような印象を受けてしまう感じがしました。磯村さんのコメント

は、配信してほしいくらい良かったです。1回で終わらせてしまうのはもったいないと思います。中継は、音割れがあり聴きづらかったです。

(保坂委員) 「週末の土曜日に楽しさを」というコンセプトのもとだと考えると、確かに楽しそうでは、その点は良かったです。出演者の声が似ているのか、全員で喋ったとき、ある一定の音量になると急にごちゃごちゃとなっていてしまい内容がまったく入ってこなかったです。磯村さんのコメントは声も落ち着いていてホッとするような内容でした。昔、沼津は映画館がたくさんあったなと思い出しましたし、こうして地元で映画に関するイベントをやってくれたり、何かアクションを起こすことによって、映画館が増えることにつながってくれば良いなと思いました。中継については、機材の問題もあったかもしれないですが、開局記念特番なのになぜこちらの居酒屋さんを紹介するのかという関係性が分からなかったです。

(杉本委員) ぬまんづの2人だけだと話が聞き取れますが、4人になると盛り上がりすぎて聞きづらいと感じました。映画の話ができ、自分たちが喜んでいるんだろうなという感じは伝わってきました。ゲストの甘中さんと土井社長のどちらが喋っているのかが分かりづらかったです。磯村さんのコメントは聞きやすかったです。中継について、こちらのお店がなぜ紹介されたのかが分からなかったです。何を話しているのかも聴こえづらく、スナオさんの質問の声は分かるけれど、他の人の声が小さくて聞き取れなかったです。

(高木委員) 全部を通して聞いているわけではないので流れが分かりませんが、特番だからなのか、普段は交互で話すなど意識して話しているけれど、それぞ

れのリアクションや喋りなど、重なる部分があり聴きづらかったです。仕方ない部分もあるとは思いますが、声かぶりについては出演者にも意識してもらえるようお願いをしても良いのではないかと思います。中継は、楽しい雰囲気は伝わりますが、リスナーが置いてけぼりになっている感じもして、もったいないと思いました。また、Xのプロフィール欄が28周年になっていないので修正したほうが良いと思います。

(大川委員長) 昨年の番組審議会と同じ意見が出ていますね。開局記念特番なので、関連する人を全部出したいという気持ちもあると思いますが、それでもやはり、リスナーが聞き取れなければ意味が無いので、その辺りの整理は制作側でしてほしいと思います。ゲストの方は素人の方なので、せっかく出演をしてお話していただけるなら、なおさら構成の整理はしたほうが良いかと思います。甘中さんは、ハリプロ映像協会についてのPRでもあったかと思うので、団体の正式名称もきちんと紹介してほしいかったです。

(林委員) 「ハリプロ映像協会」が正式名称ではあります。フィルムコミッションが沼津で立ち上がったときに「さあ来いハリウッド！ロケでまちが元気になるプロジェクト」という名前だったのが、段階を経て「ハリプロ映像協会」という名前になりました。

(大川委員長) そうだったんですね。聴き取りづらく、団体名の発音や略称なのかがよく分からなかったというのがありますが、フィルムコミッションがあるというのは知っていたので、今回知れて良かったなと思います。それから中継について、機材の関係で聴き取りづらかったのもありますが、現地に和泉さ

んがいた演出は、普段からコスト FM を聴いていて、和泉さんのことを知っているなら面白いと思いますが、知らない人からすると、なぜ盛り上がっているのか伝わらない場合もあるかと思います。特番のターゲット層を普段から聞いているリスナーとしているならそれまでですが、そういったところの作り方はどうするかなど考えながらやった方が良いと思います。また、中継の間に現地にて音量やマイクなどの改善はできなかったのかなと思います。オンエアが聴こえづらいという判断を現場同士でうまくやりとりして修正できればまた違った結果になったのではないかと思います。中継先についても、どうしてその店を選んだのか、ストーリーがほしいです。特番内でその日に回っていく中継先は、どういうストーリーを立てそのラインナップでやっているのかが分かるといいと思います。

（事業者側：植田） 皆さんご意見ありがとうございます。中継担当は、スナオ・和泉の 2 人と、相川、そして植田は、それぞれ違う中継先からお届けしました。私は本日、委員側としてお話をするとすれば、皆さんのおっしゃる通りだと思います。私自身、中継やその他業務もあったため、放送を全て聴けているわけではないのですが、特に中継は想像以上に酷かったと率直な感想です。いちリスナーとして、そして事業者側として、これはまずいと思います。内輪話やメンバーの多さ、音量・音質的に内容が入ってこないというのは、機材の問題も含め、ラジオメディアは音声が命であり、そのベースの部分がしっかりできていないのにそのまま放送してしまったのは反省するべきところです。内容については足し算が多過ぎて、これもやろうあれもやろうというのが顕著に出ていたかと思います。足し算ばかりでなく、引き算をして、もっとシンプルにやれば良かったのではないかと思います。中継先を例にする

と、ご主人に話を聞き、それと同時に奥さんにも話を聞き、さらにそこに和泉が入ってくるなど、想像がつけば良いですが、想像がしづらいため、わちゃわちゃしてしまっていると思います。まずご主人に話を聞いてから次に奥さんに話を聞くといった、インタビューの順序を考えるなど、事前にもっと準備をしなければならなかったと思います。中継先に和泉がいるという演出も、担当者レベルとしては盛り上げたいという気持ちがあるのは分かりますが、その演出は正しかったのか検証の必要があると思います。

補足として、今回映画をテーマにした背景としては、沼津市出身の原田真人監督がお亡くなりになったことや、磯村勇斗さんが静岡映画祭に携わっていること、Bivi 沼津にあった映画館「シネマサンシャイン沼津」が閉館したことなど、沼津をとりまく映画についての話題があったというディレクターの意向があります。皆さんの質問にありました、中継先の選定が分からなかったという点について、浅田より説明します。

（事業者側：浅田） 今回の中継先について、開局記念特番にご協賛いただいている、サントムーン柿田川様、JA ふじ伊豆様から金岡産直市様、柿田川ブリューイング株式会社様から senspi 様、石垣干物製造様よりお届けしました。石垣干物製造様については、柿田川ブリューイング株式会社様の紹介で中継先とさせていただきました。本当は中継の企画として、沼津のクラフトビール店を巡るはしご酒のようなものをやりたかったのですが、中継尺の都合上それが叶わず、今回は石垣干物製造様から senspi 様へ、という2か所の関連した中継先となりました。

（事業者側：植田） 昨年 の審議でのご意見と、今回のご意見と重複するところもあり、これは事

業者側として改善していかなければならないと思います。特番の内容について、皆さんが「楽しい」と前向きにとらえてくださり嬉しく思いますが、私個人としては、7月の熊本地震や、8月の千葉での豪雨など、命にかかわる話題が全国的に取り沙汰されたことも考慮し、民放ではない我々コミュニティFMとしては、防災にかかわることも、特番のなかで発信しなければならなかったと思います。5時間楽しくやるという内容も大事ですが、メリハリ・緩急をつけて、防災に関するトピックスを入れるなど、そういった番組の作り方をしても良かったかと思っています。

(杉本委員) 映画がテーマということだったのですが、映画についてお話したのは甘中さんや土井社長だけですか。

(事業者側:浅田) 14時台に甘中さんと土井社長、16時台に映画「温泉シャーク2」の永田プロデューサーに出演いただきました。そのほかのゲストでは、シンガーソングライターの飯田徳孝さんや沼津ふるさと応援隊のせんちゃんにご出演いただき、好きな映画の話などをさせていただきました。

(杉本委員) 中継は映画とは関係ないんですね。

(事業者側:浅田) はい。中継は、スポンサー還元という形とさせていただいたので、映画を絡めておりません。

(事業者側:植田) 開局記念特番は、コーストFMが28年ここまで続いてこられましたと、地元へ還元する、「ありがとう」の気持ちを込めるという考え方で製作するなら

ば、もう少しテーマに幅があっても良かったかと思います。

(大川委員長) テレビの特番などでもまず今年のテーマがあると思います。今回の特番に今年ならではのテーマがあったかどうか。テーマを設定したなかで、そのテーマに関連付けて各時間帯のゲストや中継先を割り振っていくという作り方をしていけば、内容も入ってくるかと思います。今回の特番はごったになってしまっているのも、もっと整理ができればより伝わりやすくなると思います。

(事業者側:田中) 大川委員長が仰ったように、今回の開局特番にテーマがあったのかなと、私もお意見をいただいていたと思います。ご指摘いただいたように、普段レギュラーで出演しているパーソナリティは聴きやすいけれど、コーストFMを愛してくださっていて出演してくださるゲストを迎え、3〜4人で喋るとなると、わちゃわちゃしてしまい、リスナーが聴きづらくなってしまうのかなと思います。ありがたいことに、開局特番に携わる皆さんがそれぞれ特別な思いを持ち、ゲストに声をかけたり、コメント依頼をしたりなどして、その中でも今回、磯村勇斗さんのコメントは、あらためて沼津というまちは磯村さんにとって小さい頃から映画の思い出がつまっていっぱいののだと思いました。林委員のおっしゃるとおり、磯村勇斗さんのコメントは配信したほうが良いと思いました。番組に携わっている方は、コーストFMを専属として仕事をしているわけではないので、事前に綿密な段取りや打ち合わせをすることは難しいですが、テーマを設けて5時間の特番内の構成をしっかり決めて、やることやコンセプトを共有し、また機材のチェックも事前にしっかり行わなければならないと思いました。今回いただいたご意見をもとに、より良い番組づくりを引き続き行ってまいります。